

高校生と向き合う「高校現場」の声より

VIEW21読者の先生方に、生徒を学びに向かわせるための手立てを聞いた。

Q. 生徒に現状よりも高い目標に「挑戦」させるために、先生が心掛けていることがあれば、教えてください。

●やはり授業。生徒に学ぶ楽しさ、喜びが伝わることにより、生徒の気持ちが変わっていくのだと思う。〈静岡県〉

*

●生徒に応じて、当面の到達目標、実践目標を具体的に示すように心掛けている。到達できたら褒める。出来なければ、厳しく指導することもある。しかし、生徒が目標を見失わないように配慮することが大切。達成感があれば次も頑張れるはず。〈佐賀県〉

*

●努力が認められるという

実感を持たせること。夢を志へと育て、仲間と行動をとるにすることで、未来は予想を超えたものになると、励まし続けること。〈宮城県〉

*

●「無理」とか「駄目」という指導をしない。「出来る」と励まし続ける。〈千葉県〉

●生徒に自信を付けさせること。そのために、さまざまな情報を入学直後から与え続ける。必要な模試の受験を促し、事前事後指導を継続することで、徐々にその気にさ

せる。1回や2回の講演会や集会で生徒をその気にさせることは出来ない。〈新潟県〉

*

●目標を安易に下げないように、常に励ます。伸びたところを褒める。〈愛知県〉

*

●現状よりも高い目標そのものを知らない場合も多いので、あらゆる機会を捉えて情報を提供するよう心掛

けている。例えば、国立大志望者は地元志向が強いが、関東の難関国立大にも目を向けさせたい。〈茨城県〉

*

●目標は、上げることはあっても絶対下げてはならないと伝える。〈秋田県〉

*

●なぜ勉強するのかを常々説く。高いレベルで努力してきた人の周りには高いレベルの人が集まる、良い出会いをしたければ自分がひたむきに努力する人になれと生徒に言っている。素敵な人に出会いたければ、自分が素敵な人になれと。「君の実力な

ら、〇〇大学に行かないと

つたいない」という言い方は生徒はなかなかその気にはならない。「君は、より高いレベルの環境に身をおくべき資質や能力を持つている！」と信じて真顔で説くことが重要だと思う。〈滋賀県〉

*

●本校は推薦で勝負する生徒が多いので、AO入試で1ランク上の学校にチャレンジさせる。〈静岡県〉

*

●高い目標を常に語り続けること。その意味で教員は勉強し続けなければいけない。〈福島県〉

A. 生徒に自信を付けさせる

A. 高い目標を語り続け、教師も勉強し続ける

● 具体的にどの教科のどのあたりを強化すれば生徒の力を一段階上げられるかを示してあげることだと考える。そして、高い目標にチャレンジすることでのどのような効果があるかを示すことだと思ふ。〈兵庫県〉

● 授業でも定期考査でも、やや難しめな問題を提示し、現状に満足、安心させないよう意識している。〈宮城県〉

● 「出来るかどうかはやってみないとわからない。高い目標がなければ進歩（学力向上）なし」と話す。〈広島県〉

● 現任教では、引っ張り上げて、更に背中を押してあげないとなかなか挑戦をしない。面談に時間をかけて、先輩た

ちの成功例を話したりして、自分にも出来るかもしれないと思わせるようにしている。そして、挑戦する気持ちに萎えないように、具体的な方策についても先輩の例などを紹介している。〈三重県〉

● 「頻繁な声掛け」これに尽きる。いつも見ていることを生徒に意識させるには、個別の声掛けが欠かせない。担任はもちろん、それぞれの立場でいろいろな場面を通して、高い意識を持たせる努力をすることが教員の使命の一つだと考えている。〈山形県〉

● 「模試を受ける前」の声掛けと「模試を受けた後」の声

掛けが大切。特に結果返却に際しては、なるべく出来た教科にポイントを絞って褒め、気持ちよく勉強に向かわせる指導をしている。〈長野県〉

● 選択肢をどれだけ示してやれるかだと思う。全体での話も必要だが、それ以上に個々の生徒と話す時間を多く取り、その中でいろいろな選択肢を思い描かせることをさせたい。個々の教師が個別に話せる生徒数は限られているが、それぞれの教員で分担すれば数はどんどん増えていく。〈岡山県〉

● 好きなことは何？と問うことにしている。仮に「音楽」

と返ってきたら、音楽に関連する仕事はいくらでもあること、その中で自分が得意なことは何か、それを生かせるのはどんな仕事か、そのためには何を学んだら良いかを考えさせている。〈山形県〉

● 興味のある分野のより高次の内容を示したり、大学の研究分野を紹介することなどを心掛けている。また高校の学習内容が、上級学校の学問や研究とどうつながるかを出来るだけ紹介するようになっている。〈愛知県〉

● 志を持った生徒を増やすため、授業で刺激を与える。〈福井県〉

● 生徒を揺さぶる言葉をたくさん持つこと。生徒は「言葉」で指導されており、教師

は言葉を日常的に磨く必要がある。そして生徒に自分の思いを表現させること。最初は生徒もなかなか自分の言いたいことが言えず、教師や周りの大人が代弁してしまいうことが結構あるが、最初は稚拙であっても自分の言葉で表現させることが大切で、そのときに、「待てるかどうか」が鍵になる。〈埼玉県〉

● とにかく私が言い続けているのは「志」と「世のため人のため」。自分のことだけでなく、社会や他者への視点を持って生きていってほしいし、他者との共生を意識させたい。〈三重県〉

● やはり「語り込み」が大切だ。そして「伝説の先輩」の話をしていくこと。先輩の成功談は、一番生徒のやる気を引き出すと思っている。また、そういう先輩を毎年育てていく営みも同時に大切なことだと思ふ。〈長崎県〉

A. 生徒を揺さぶる「言葉」と「待つ」姿勢